



こうべ子どもにこにこ会ニュース

巻頭言

田村 誠 さん (神戸市立東灘小学校長)

だれにでも優しく・どの子にも分かる

以

前、長田区の南部地区の学校に勤めていました。全校生は二百人前後でしたが、そのうちの約半数パーセントがベトナムにルーツのある子どもたちでした。来日してすぐに学校に来ることも珍しくなく、全く日本語が分からない子どもたちもいました。

学校では、母語教室が週一回開かれ、母語を思考基盤とする新渡日の外国人児童が、新しい言語である日本語を早期に習得できるようにするために、母語指導を効果的に行っていました。母語・母文化にふれる様々な体験を通して、新渡日の外国人のアイデンティティ確立を支援する取り組みも行われていました。夏休みの活動では、地域・保護者・教職員との交流の場を設定し、ベトナム料理であるフォーやチュエ作りを通して交流を深めていきました。作って食べることは、距離を縮める有効な手段でした。

東灘南部地区にも外国の方が多く住まわれています。当然その子どもたちが小学校に入ってくるわけです。本校にも南米を中心とした外国にルーツのある子どもたちが通ってきます。渡日した年齢が違い、渡日からの期間も、渡日に至る背景も違う子どもたちをいかに指導・支援していくかをしっかりと考えていく必要があります。子どもたちの置かれている環境は様々ですが、週に一度だけ「こうべ子どもにこにこ会」のご支援・ご協力により日本語教室が開かれ、マンツーマンで学習しています。子どもたちにとっては、充実した時間となっていると思います。ただ、これだけでは十分な力をつけるところまでに至りません。各教室での学習が重要になってきます。子どもたちは、日本の学校・教室で学習していくのですから、学習言語習得までをめざした長期的な支援が必要です。会話ができるようになることと、学習内容が理解できて、自分の考えを表現できることとは、異なるコミュニケーションはとれても、英語で書かれた本を読んだり、

英語で文章を書いたりするために、かなり学習を積み重ねていかなければならないということと同じです。

日常会話といわれる生活言語は、その言語環境の中で暮らしていれば、一年から二年で習得できますが、算数の文章題を読んで理解したり、作文を書いたりする学習言語については、習得までに早くも五年から十年かかるということになります。

そこで大切になってくるのが、最近、特別支援教育でよく言われているユニバーサルデザイン教育です。すべての子どもが、楽しく「わかる・できる」ようにすることを目指して工夫する授業なのです。

では、実際に授業にどのような支援をしていけば、すべての子どもが楽しくわかり、できるようになっていくのでしょうか。

日本語指導が必要な子どもたちが、在籍学級での一斉授業の際に感じる「困り感」の要因を取り除くことが大切です。

一対一の学習では理解できることも、一斉授業時間中の指示や発問を聞きとることは難しいのです。特に、授業の最初の発問や指示が聞き取れなければ、学習活動に入ることもすらすらできなくなり、指示や発問をフラッシュカードや板書で提示するなどして、視覚的に理解できる方法を採用入れることも大切です。写真や絵を活用することも有効です。また、教師の話スピードや指示の出し方も考えなければなりません。

子どもに関わる全ての教職員がそれぞれの場面で感じ取った子どもたちの力について話し合い、共通理解していく必要もあります。「こうべ子どもにこにこ会」の方々のからの情報がなくてはならないものになっています。すべての情報を分析し、共通理解したことから必要で有効な指導・支援を考え、それらを共有することで、初めてユニバーサルデザイン教育を確立できるようになると思います。



活動レポート



2014年度 第1回こうべ子どもにこにこ会ボランティア研修会

((公財) 兵庫県国際交流協会 外国人児童生徒への日本語・学習支援アドバイザー派遣)

竹中夕紀さん (土曜日ボランティアリーダー)

「一緒に考えよう、子どもへの向き合い方」

講師:野村 春美 先生

東灘小学校校内日本語教室講師 / (公財) 兵庫県国際交流協会登録講師 / 介護福祉士

日本語教師としての豊富な経験と、介護福祉士としての日々の高齢者との触れ合いを通して、講師が感じる“人”と関わるということ、支援をするということ、そして、子どもと向き合うとはどういうことなのか、支援者ひとりひとりが自分自身を見つめ直し、共に考える機会となるよう、実施しました。

普段の活動の中でどこか、疑問や不安を持ちながら子どもたちと接していることもある私たち。講師の先生の『子どもとの向き合い方に関する』温かいお話にホッと、ボランティア同士のグループワークでは、一人一人の子どもとの向き合い方を共有する事ができました。

不思議なもので同じ空間で同じ時間を過ごすボランティアメンバーは、根底の考え方がやっぱり近いことを再認識、その中でも少しずつ個性の出したグループワークでした。

ボランティアさんからの感想には、ボランティア交流の場にもなり普段話をしない人と話せたり、講師の先生のお話を聞いて、普段考えない思考を刺激され新鮮だったというようなご意見が多く見られました。このような機会がもっと頻繁にあるといいですね。



～ボランティア感想(抜粋)～

- ・ カウンセリングを通して、問題の答えは自分で出せる、時間がかかったが変わっていく自分に気付かれたとの話を聞き、壁を作らないで丁寧に時間をかけて聞くとき、子どももこちらの話(言いたいこと)を聞くようになるのだと、気付かされました。
- ・ 我々の学習支援活動は助けるというスタンスではなく、子ども達に寄り添い、自分の考えを押し付けるのではなく、一緒に考えるという姿勢、自分から日頃やって見せる姿を示すことが大切であるということに反省させられた。
- ・ 研修会で他のボランティアの方々のご意見を聞くことができ、自身の視野を広げる良い機会となりました。様々な思いを持ってみなさんがボランティアに参加しているということを知ることができ、今後自身がボランティアに参加していく上での姿勢を考えなおすきっかけとなりました。
- ・ 『聴く』ことは、いつもやっていることのようになかなかできていないとよく分かった。これからも今回のようにボランティア同士、一緒に考えたり、意見交換できる機会があるといいと思う。
- ・ とても有意義な時間でした。とりわけ、グループワークの時間には、普段、ゆっくりとお話することがない、若い方々が自分の考えをしっかりと発言されるのを見て、とても頼もしく思いました。



2014 年度 夏休み宿題教室 長尾 卓郎さん（関西学院大学社会学部社会学科）

昨年度に引き続き学生ボランティアを募り、今年度は8月4日～8日に夏休み宿題教室を実施しました。5日には科学実験教室というイベントも開催し、無事事故もなく5日間を終えることができました。

今年は本庄小学校の図書室と理科室を借りて活動を行うことができ、子ども達にはより有意義な時間を提供できたように思います。全体的に見ても子ども達の多くが、集中して学習や実験に取り組んでいたように感じられました。

また私は学生リーダーとして子ども達のマッチングも担当しておりましたが、ボランティアの方々も子ども達と楽しい時間を過ごせていたという印象を受けております。

ただゼミ活動の関係上私は昨年度も運営側として参加しており、その経験を活かして運営することができたのですが、次年度はゼミ生がおらずその役回りを誰が担うのかという部分には少なからず不安を残します。小学校の先生方との連携も図られ、毎年良い方向へ進化していく本企画が今後なんとか継続されることを願います。



★夏休み工作教室
(木琴作り)



★夏休み宿題教室



★夏休み実験教室
(中学生クラス)



★実験レポート作成中



こうべ子どもにこにこ会ブログから

皆さま、ぜひ見にいってください

(『ボランティアライフ にこにこ会』(<http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/489>)からアクセスできます！)



七夕…みんなの願いごと

7月5日は、毎年恒例の地域の『七夕』イベントに、今年も参加させていただきました！

短冊を初めて書く子も、毎年同じ願いを書く子も、凝って凝ってとっても可愛く仕上げる子も、色んな子どもたちがいる中、個性豊かなお願いごとが書かれた短冊でいっぱい。

飾り付けには子どもたちも参加し、素敵なにこにこ会の笹ができました恒例の記念写真を撮影していて・・・ふと。新しい顔ぶれが子どももボランティアさんも増えたなあ～と改めて感じました。





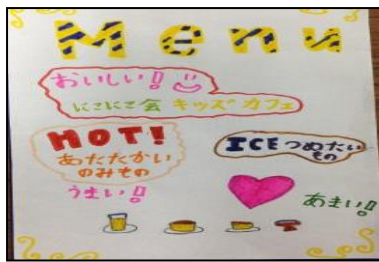
Special Report

にこにこキッズカフェ

(2014年全労災地域貢献助成事業)

日 時：2014年9月13日(土) 13時～15時
 場 所：本庄地域福祉センター大広間
 参 加：子ども店員11名 大人(ボランティア)14名
 来場者：地域住民約50名

報告：竹中 夕紀さん(事務局ヘルプスタッフ)



『にこにこキッズカフェ』は、地域の皆さんににこにこ会についてもっと知ってもらいたいと思って実施した企画です。地域福祉センターや本庄児童館の方々にご協力いただき、日常的にセンターや児童館へ来られている方々へ宣伝をさせていただく事ができました。当日は、様々な地域の方々が来場してくださり、会場では子どもたちがお客さんたちを懸命におもてなしました。カフェで出されるデザートやお菓子、飲み物の話を通して交流したり、魚釣りゲーム(ペスカリア)と一緒に楽しんだり、みんないきいきと子ども店員として活躍してくれました。本当に大成功だったと思います。また、子どもたちにとっては『働く』という事について考えることができる職業体験の機会ともなりました。

今回の企画を通じてこと改めて気がついたこと、それは『人と人のつながり』の大切さです。

「楽しかった！また子ども店員やりたい！」という子どもたちの笑顔。そして、「普段なかなか交流のない人同士だけでも、このような機会を通して顔見知りになれる。今後も継続して欲しい」という来場者の方の感想など、準備は大変でしたが、やってよかったと心から思う事ができました。



反省点も沢山ありますが、今回の体験を生かして、今後もキッズカフェの開催を継続できたらと思います。今回のキッズカフェの実施にあたり、ご協力くださった全ての皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

☆以下、お手伝いくださったボランティアさんの感想です。

(木曜日ボランティア 山岡 あかねさん)

今回初めてキッズカフェのお手伝いに参加しました。キッチンには、皆のお家の人や、色々な人たちが準備してくれた、見るのも聞くのも初めてのお菓子や飲み物が並びました。お客さんたちをもてなす皆のイキイキしていること！中にはキッチンに入って手伝ったり、後片付けを手伝ってくれる子もいて、普段とは違う皆の一面が見られ、楽しく貴重な体験ができました。

(土曜日ボランティア 中谷 明美さん)

世界のお菓子を食べられるカフェということで、珍しさもあったためか予想していたより多くの地域の方々にご来店いただきました。そのため、子どもたちも活気に溢れ、元気にオーダーをとっていたり、オススメを紹介していたので、地域交流をしながら、皆で楽しめたのかなと思います。このイベントをきっかけに、もっと「にこにこ会」や海外の事を、皆様に興味を持っていただけたら、嬉しいですね。



にこにこ会に研修生がやって来た！

9月13日のキッズカフェと10～11月の木曜日放課後教室に、(公財)兵庫県国際交流協会(HIA)の海外研修員、弓場・アポローネ・幸江さんが参加してくれています。幸江さんはブラジルのミランドポリス出身で、実家の農業を手伝いながらエステティシャンのお仕事をしているそうです。ポルトガル語も日本語もペラペラで、しかも料理が得意な幸江さん。キッズカフェのキッチンでもすぐにみんなに溶け込んで、大車輪の活躍でした。



そんな幸江さんに、放課後教室の子どもたちがインタビュー♪

★HIA研修員にインタビュー:

- ・いつ日本に来ましたか？いつまでの予定ですか？
ー8月23日から3ヶ月の予定
- ・日本に来てどこへ行きましたか？どこがおもしろかったですか？
ー最初に大阪、そして姫路に行った。京都が良かった。
- ・日本の食べ物は何が好きですか？
ーいっぱいあるけど、魚系、特にさしみ。あっ、フルーツもおいしい。
- ・日本に来て驚いたことは？ブラジルとの違いとか。
ー電車でどこへでも行けること。階段が多いこと。そしてトイレがきれいなこと。

- ・こうべ子どもにこにこ会の活動について
ー色々な国の子どもが沢山いることを知った。言葉が大変。
- ・先月のキッズカフェはどうでしたか？
ー忙しかったけどすごく楽しかった。
- ・日本語はどこで勉強したんですか？
ー母親が参加しているコミュニティで皆が日本語を話している。そこで会話くらいはできるようになった。
- ・将来の夢は何ですか？
ーエステの店を開きたい！

♪幸江さん、夢が実現するといいですね♪



校内日本語教室ニュース

5月の連休明けからスタートした今年度の校内日本語教室。7月半ばからは学校の夏休みに合わせて校内日本語教室もお休みです。

ですが、この貴重な夏休み期間を利用して、各児童の担任の先生方と校内日本語教室の担当講師との個別情報交換会を実施。1学期の学習や生活を振り返り、2学期からの学習の方向性のコンセンサスを深めることができました。

また、文部科学省が作成した「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」のテスターとしてのスキルをアップし、教室活動により有効に活用すべく、このアセスメントの作成に携わられた櫻井千穂さんを講師に招き、研修を行いました。

(*この事業は「『生駒温子』児童福祉事業助成」の助成を受けています。)

8月23日(土)、DLA(外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント)の研修を行いました。

DLAのねらいは「日本語での日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒対象に、その子どものことばの力をとらえ、どのような学習支援が必要かを考えるためのヒントを得る」ことにあり、DLAは単なる日本語能力のレベルのみならず、子どもの年齢に伴う認知能力の発達段階、母語、年齢、入国年齢、滞在年数をも考慮した測定ツールとなっています。DLAの中には読む力の評価がありますが、そこには「教科学習言語能力の育成には読解力育成に焦点を当てた多読が必須」という考え方が根本にあります。また、この指導は学力を伸ばすだけでなく、子どもたちが本に興味を示し、読書好きになることも目指しています。研修で櫻井さんが紹介してくださった「多読指導が子ども達の学力に大きな影響を与えた実践報告」はとても印象に残りました。

校内日本語教室でも、昨年度より少しずつDLAを取り入れてきましたが、多読と再話の重要性をこの研修で強く受け止め、2学期から、より体系的に指導に取り入れることになりました。1週間に1回45分の授業で何ができるかというジレンマを感じている中で、この指導が1週間を連続させるきっかけになり、子どもたちが読書を好きになってくれることを願っています。(野村春美さん 東灘小学校校内日本語教室講師)



そして、夏休みも残りわずかとなった8月28日(木)には、東灘小学校の校内研修で外国につながる子どもたちが抱える課題や背景、こうべ子どもにこにこ会が目指す支援体制等についてお話をし、先生方と一緒に、子どもたちにとってわかりやすい授業について考える機会をいただきました。

8月28日(木)、東灘小学校の先生方を対象とした研修が行われました。こうべ子どもにこにこ会からは酒井運営委員長が講師を務め、校内日本語教室の講師も参加しました。

研修はまず「外国につながる子どもたちが健やかに育つ環境づくりのために—ソーシャルワークの視点を加えて—」と題して、こうべ子どもにこにこ会の目指す環境づくりや活動、外国につながる子どもの背景や学習でつまずきやすいポイントなどについて、校内日本語教室での事例なども交えた講義がありました。

その後、担任学年ごとのグループに分かれ、実際の教科書の単元を取り上げて、子どもたちにとって難しいと思われる言葉をピックアップしたり、授業内容をより理解しやすくするための事前の活動を考えたりするワークショップを行いました。「この言葉は日本の子どもにも難しい」「一見難しそうだけど、運動会の練習の時によく耳にする言葉だからわかっているのではないか」「同音意義語と勘違いするのではないか」と活発な意見交換が行われました。このワークショップには校内日本語教室の講師も参加し、実際に校内日本語教室に参加している子どもを思い浮かべながらの意見交換になりました。そのため、普段のクラスや生活での様子、日本語教室での様子の情報交換にもなり、それぞれの立場から感じる子どもの課題なども知ることができ、大変有意義でした。今は外国につながる子どもがいるクラスを担当されていない先生方も「日本の子どもにもわかりやすい授業につながる」と、関心を持って取り組まれていた姿が印象的でした。

終了後、先生方からは「これまでもわかりやすい授業を心がけてきたが、子どもたちが思わぬところでつまずいているかもしれないと思った。授業を見直すよい機会になった。」という感想が聞かれました。(石井真美枝さん 本庄/東灘小学校校内日本語教室講師)

ひがしなだ小学校の自まん
①人が多い：友だちが作りやすい。
たのしい。
②うんどう場が大きい：人がたくさんあえべ
て、笑うこえが大きいけど、う
るさくない。
③日本語教室がある：いろんな外国人が日本
語が主なべる。

(N.M.)

子どもたちの作文



東灘小学校の自まん
①千人以上のほいほい外遊している。
友だちかたくさん作れるから楽しい。
②あいさつ運動後かあいさつをする。
いつでもどこでも、たれとでも、大きな声
であいさつをしている。
③外国人のせいとかいいる。
外国語を知りたり人にも外国語を教えること
と外できる。

(I.N.)

授業の中で、子どもたちに学校自慢を書いてもらいました。外国につながる仲間がいること、そして日本語教室の存在をプラスにとらえてくれていることが、とても嬉しいですね♪

★掲示板★



● 会員になって私たちの活動を
支えてください。 ●

*正会員【年会費 5000円】 個人
総会での議決権がある会員です。

*サポーター会員【年会費 1口1000円】
個人1口以上・法人10口以上
経済的な支援を頂く賛助会員です。

※寄付も大歓迎です♪

郵便振替 0090-4-251298
こうべ子どもにこにこ会
(同封の振込用紙をご利用ください)

★会員の皆さま、ご寄付くださった皆さま、ご支援ありがとうございます！！

皆さまのご支援により、にこにこ会の活動は成り立っています。
今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。
なお、備品、絵本等も有志の皆さんからいただいています。厚く御礼申し上げます。

● ★日本語・教科支援ボランティア募集

放課後教室のボランティアが大変不足しています！

それぞれの子どもの学習能力やニーズに対応し、主に日本語（国語）・数学（算数）・
英語の学習を1対1でサポートしています。原則として日本語でサポートを行います
ので、外国語能力・経験等は不問です。やる気のある方歓迎です。

☆活動時間：木・土 16:00～18:00 ☆活動場所：本庄地域福祉センター

※ボランティア オリエンテーション（要予約）に参加してみませんか？

オリエンテーション担当 松下 までお気軽にお問い合わせください。

問合せ先：078-453-7440

● Email : kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp ●



《編集後記》

なかなか秋らしい秋を感じられない今日この頃ですが、それでも秋といえば、スポーツの秋、
芸術の秋…。子供たちも、運動会や体育祭を通じて一回りたくましくなり、音楽会や文化祭を
通じて大人の階段をまた一段上がったように感じられます。そして、読書の秋!!にこにこ会
では、校内日本語教室に続いて、放課後教室でも読み聞かせや読書活動の工夫が始まりました。
また次号にてご紹介できれば嬉しいです。

こうべ子どもにこにこ会

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町4丁目12-20-201

電話 & FAX : 078(453)7440

メールアドレス : kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp

URL : <http://nikoniko.gee.jp> (☞「こうべ子どもにこにこ会」で検索！)

